

# まがつひのかみ 禍津日神

## いそたけるのかみ 神の猛五十 真相に迫る

③ 三井 淳

スサノオの高原(たか  
まがはら)で仕出かする数々  
の狼藉につき、平田篤胤は

「靈能真柱(たまのみはし  
ら)」にて、「その荒魂と坐  
す禍津日神(すなわち五十  
猛神(これなり…))の厲坐す  
が故に、その御心によりて  
荒座るなり」(岩波日本思  
想大系50「平田篤胤・伴  
信友・大國隆正」61頁)  
とその所以(ゆえん)を解  
釈する。

スサノオをして荒びませ  
る禍津日神、すなわちイン  
タケルについて、同566  
頁補注は同じく平田篤胤の  
古史伝六の二七段を引用し  
て説いている。「其の五十

猛神と申すは、すなわち禍  
津日神の亦名なるを、下に  
須佐之男命の御子有り、  
(但し御子と云へるに疑ひ  
あるべけれど、荒魂は謂わ  
ゆる分身に坐せば、御子と  
も申すべきことなり)：「  
つまりイソタケルなるは、  
スサノオが禍津日神に憑依  
せられて悪の化身に豹変  
(ひょうへん)したものだ  
と、篤胤は言い放ったのだ。  
禍津日神とは、イザナギ  
が妻のイザナミと永別して  
黄泉(よもつ)より生還し  
たあと、その汚(けが)れ  
により、イザナギ自身から  
生み出された神である。そ  
してその「枉(まが)れる  
を矯(なお)さむ」として、

次いで「直日神(なおひの  
かみ)」が生まれ、日本書  
紀ではそのすぐ後に、イザ  
ナギの左目からアマテラス  
が、鼻からはスサノオが生  
み出されるのである。して  
みれば、潔斎直後にイザナ  
ギ自身から生み出されたと  
いう意味で、マガツヒ、ナ  
オヒ、アマテラス、スサノ  
オは同格の神となり、ナオ  
オは同格の神となり、ナオ  
ヒは専らアマテラスの和魂  
(にぎたま)を体現し、マ  
ガツヒはスサノオに特化し  
て、イソタケルという異形  
(いぎよう)神を生んだと  
いう(前出岩波思想大系  
50、523頁)。

は、かかるまゝとるついでに神々  
の理(ことわり)を、その  
まま受け入れる素朴心は持  
ち合わせてはいない。イン  
タケルはスサノオと共に新  
羅に天降(あまくだ)りま  
すところから、これも天神  
(あまつかみ)なのである。  
スサノオは高原において  
様々な神を生むが、いずれ  
も禊(みそぎ)後の単独行  
為により生まれたものであ  
つて、所謂「共為夫婦(みと  
のまぐわい)」の結果では  
ない。イソタケルも同職  
(どうちゆう)の生まれの  
由、元よりスサノオの分身  
なのだ。

### 日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす  
◇木曜日は内藤博之さんの「ガウデ